

# 「北方領土」中学生スピーチ審査 全国最優秀賞 内田涼葉さん (法勝寺中2年)



法勝寺中学校2年の内田涼葉さんが「北方領土に関する全国スピーチコンテスト」で最優秀賞にあたる「内閣府特命担当大臣賞」を受賞しました。北方領土問題対策協会が主催した同コンテストに全国から約5千人が応募。最終選考の10人に選ばれた内田さんは、2月に行われたスピーチコンテストに参加し、見事最優秀賞を獲得。平和的解決への努力を強調した点が高く評価されました。

## 内閣府特命担当大臣賞受賞作品 北方領土返還に向けて

北方四島は、日本の領土です。一日も早い返還が、私達日本国民の願いです。領土問題は、国の利益が絡むため、様々な争い事を起こしかねない難しい問題です。「竹島」や「尖閣諸島」での韓国・中国との争いを見てもそれは明白です。

しかし、北方領土問題は、他の領土問題とは大きく異なる点があります。それは、日本とロシア、双方がお互いに解決しようという姿勢を持って、この問題にのぞんでいる点です。だから私は、他の問題より解決への道は近いと信じています。

その道を探るため、まず、「北方領土は日本固有の領土である」という意見に耳を傾けてみる必要があると感じました。以下はそれを私なりにまとめましたものです。

一つ目の理由は、北方四島には、江戸時代前にアイヌの人々が住んでいたということです。

二つ目の理由は、十九世紀半ばにロシアとの間で交わされた、日魯通好条約です。この条約で択捉島までは日本の領土となっていたことがわかっています。また、その後の樺太千島交換条約では、樺太をロシア領とする代わりに、ロシア領だった千島列島を日本の領土としたはずで

さらに、一九五二年、アメリカ合衆国上院で、戦後のサンフランシスコ平和条約の中には、北方領土を旧ソ連に引き渡すことは含まれていないと決議されたこともあげられます。

これだけを読むと確かに日本の領土であることは疑う余地がありません。しかし、ロシア側にも言い分はあるようです。第二次世界大戦後、旧ソ連は戦勝国の権利として、正当に北方領土を手に入れたこと、また実際に島に多く住んでいるロシア人をどうするのか、と主張していることです。

私達は、これらの問題点に目を向けながら、ただ「自国の領土」と主張するだけでなく、両国とも納得できる解決策を考えねばならないと感じています。現在ロシアは北方四島に軍事基地を作り、外国資本を誘致して開発を着々と行っているそうです。これを放っておけば、両国の信頼関係はますます崩れて、修復できなくなるかも知れません。今こそ、みんなで知恵を出し合い、この問題の解決策を考える時だと思えます。

では、どんな解決方法があるのでしょうか。私なりに三つの方法を考えてみました。まず考えられる解決策は、国際司法裁判所の判決に従うことだと思います。しかし、国際司法裁判所に提訴するには、相手国の同意が必要です。ロシアが同意しなければこの道は閉ざされてしまいます。

次に考えられるのは、日本の国際的地位をあげるよう努力することです。最近、日本の経済は低迷しています。経済を安定させ、世界に信頼される日本にすれば返還の交渉も有利に運ぶ

かもしれないと考えます。ですが、国力をつけるには時間がかかります。そう考えると、この方法も早急な解決にはつながらないと思えます。

やはり、最もいいのは、ロシアと話し合いをなるべく早く行うことだと思います。どちらの国にも利益が出るようにするにはどうしたらいいのか、接点を探るべきです。そのためには、日本も、原則を述べることに終始せず、ロシアの意見に耳を傾ける必要があるのではないのでしょうか。それは決して日本の損にはならないはずで

日本が平和的に解決しようと努力する姿は、世界から好感をもたれ、他国との信頼関係を回復する絶好の機会だと思っております。

私はまだ中学生ですが、これから北方領土の一刻も早い返還を願うとともに、もつと関心を持ってこの問題への自分の考えをしっかりと携えていきたいと思えます。